

令和2年6月26日

Daigas ガスアンドパワーソリューション株式会社 御中

「(仮称) 苫東厚真風力発電事業計画段階環境配慮書」について以下のとおり意見書を提出いたします。

特定非営利活動法人サロベツ・エコ・ネットワーク

代表理事 吉村 穰滋

(北海道天塩郡豊富町字豊富東2条5丁目)

風力発電の真実を知る会

代表 佐々木 邦夫 (公印省略)

(稚内市)

道北の自然と再生エネルギーを考える会

代表 富樫 とも子 (公印省略)

(北海道天塩郡)

日本野鳥の会 道北支部

支部長 小杉 和樹 (公印省略)

(北海道)

北海道海鳥保全研究会

代表 長谷部 真 (公印省略)

(北海道)

■事業地域内の自然環境の重要性

勇払原野を含む苫東厚真地域は道央地域にわずかに残された草原や湿原・湖沼・海岸環境が広がっており多くの希少野生生物が生息します。ここで大規模風力発電施設を建設することをやめ、野生生物の保護区として後世に残すべきです。

■チュウヒ

事業地域で繁殖するチュウヒは国内希少野生動植物種に指定されており、日本でも100つがい程度に限られる絶滅危惧種です(チュウヒの保護の進め方参照)。繁殖個体群のうち大部分が北海道で確認されていますが、広い北海道でもチュウヒのまとまった個体群が繁殖可能な湿原や草原環境はサロベツ・石狩川低地・釧路湿原周辺そして勇払原野にしか残されておらず、苫東厚真地域の湿原や草原は道央地域における石狩川低地と並ぶ残された主要な繁殖地です。当該地域に風車群が建設されると、営巣・採餌環境が失われ、仮に繁殖したとしても風車の存在や維持管理作業による人為的要因が繁殖への攪乱要因になり、繁殖成績の悪化や繁殖個体群の減少が懸念されます。その結果、勇払地域の遺伝的独自性を保つのに十分な繁殖個体群が維持されなくなり、北海道のチュウヒの地理的・遺伝的多様性が損なわれる恐れがあります。また、チュウヒは低空で飛翔することが多いですが、繁殖期初期のディスプレイや餌運び時、他の鳥類への威嚇時には高高度(風車に衝突する高度)で飛翔するため、バードストライクの恐れもあります。以上から、チュウヒの営巣環境と採餌環境が大きく損なわれる恐れがあるため、苫東厚真地域における風車の建設を避けるべきです。

■タンチョウ

タンチョウは近年主要な繁殖地である道東から道央・道北地域への繁殖地の分散化が進められています。その中で苫東厚真地域における湿原ではタンチョウが繁殖しており、今後の繁殖数の増加も期待されることから、風車建設工事による営巣・採餌環境の消失や悪化、バードストライクの恐れのある風車の建設は避け、タンチョウの繁殖地(潜在的な繁殖適地を含む)を保護区として保全すべきです。

■アカモズ

アカモズは国内で近年個体数が著しく減少している絶滅危惧種で、亜種アカモズは世界で本州の一部と、北海道ではまとまった個体群は石狩低地と勇払原野で合わせて数十つがいしか繁殖が確認されておらず、サハリンでも南部の一部でわずかなつがいが残されているに過ぎません(中部北部では亜種カラアカモズのみが繁殖していることが明らかになりました)。苫東厚真地域は世界でもその残されたわずかな繁殖地の一つとなっています。風車の建設により営巣・採餌環境の悪化、消失やバードストライクの恐れがあります。このため、当該地域はアカモズの生息環境として風車の建設を避け、保護区として保全すべきです。

■アカエリカイツブリ

アカエリカイツブリは絶滅危惧種に指定されていませんが、北海道のみで繁殖し、近年繁殖個体群が著しく減少しており、北海道内全体で20つがい程度しか確認されていません(長谷部・富士元 2020)。苫東厚真地域ではアカエリカイツブリの繁殖が確認されていますので、風車の建設により繁殖環境の悪化やバードストライクの恐れがあります。このため、当該地域はアカエリカイツブリの生息環境として風車の建設を避け、保護区として保全すべきです。

■オジロワシ・オオワシ

苫東厚真の事業地の海岸や河口付近はオジロワシ・オオワシの渡り経路上に位置し、越冬地として利用されています。特に風車による脆弱性が強いオジロワシへの影響は計り知れません。実際に稚内の道北7事業の計画地では主要な中継地近くの風車計画が取りやめになりました。以上から、風車の建設にふさわしい場所でないため、建設を避けるべきです。

■ガン類

苫東厚真の事業地の海岸はガン類の本州と道央・道東・道北地域を含めた北海道全地域を行き

来する主要な出入口に当たり、マガン、ヒシクイ、ハクガン、シジュウカラガンが渡りの中継地、一部で越冬地としても利用します。この地域における風車の建設によるバードストライクの恐れや風車の存在によるねぐらや採餌場との行き来の障壁影響は計り知れません。実際に稚内の道北7事業の計画地ではガン・ハクチョウ類の渡りの主要経路上に計画された風車を取りやめになりました。風車の建設にふさわしい場所ではないため、建設を避けるべきです。

■海鳥類

苫東厚真の事業地の海岸はオオセグロカモメ、ウミネコ、ミツユビカモメなどの多くのカモメ類が渡り経路や渡りの中継地として利用しています。カモメ類は風車衝突への脆弱性が強いいため、風車の建設を避けるべきです

事業地の沖合では、絶滅危惧種のマダラウミスズメ・ウミスズメ・ケイマフリ・ウミガラスが確認されており、春と秋の渡りの季節にはハシブトウミガラス・エトロフウミスズメ・ウトウの大群が確認されています。このほかトウゾクカモメ類、ミズナギドリ類、アジサシ類も確認されています。これらの海鳥類は時化時などに海岸に寄ってくることもあり、風車の夜間照明に引き寄せられることもあります。

以上から海岸の風車の存在によるバードストライクの恐れがあるため、建設を避けるべきです。

■シギ類

苫東厚真の事業地の海岸では世界で100つがい程度しか繁殖が確認されていない絶滅危惧種ヘラシギが渡りの中継地として利用します。また、アカエリヒレアシシギやハイイロヒレアシシギは群れで夜間照明に引き寄せられることがあります。

以上から海岸の風車の存在によるバードストライクの恐れあるため、建設を避けるべきです。

■その他鳥類

苫東厚真地域は北海道でも有数の草原性鳥類や水類の渡りの中継地となっており、渡り鳥のバードストライクが懸念されます。また風車建設により生息環境の消失や悪化が懸念されるため、風車の建設を避けるべきです。

■動物の専門家ヒアリング

専門家ヒアリングは鳥類で1名しか行っていませんが、鳥類の中でも専門性が分かれるため、オジロワシで1名、タンチョウで1名、チュウヒで1名などそれぞれの専門家から意見を聴取すべきです。

■配慮書における事業地域の選定

本来配慮書には複数の事業地域を挙げたうえで、環境により影響が少ない地域を選定する役割がありますが、当事業では事業地域はごく狭い範囲が示されているだけで、複数の地域における複数案が明示されていません。これでは環境影響評価により著しい影響が明らかになっても、事業地域の変更の余地が限られるため、十分な影響の軽減措置を取ることができません。このままでは配慮書の存在意義が薄れますので、複数の事業地域の案を挙げるべきです。

■オンラインの閲覧方法

縦覧期間のみインターネット上で閲覧可能ですが、ダウンロードや印刷が禁止されています。約千ページもある環境影響評価の図書を、PC上のみで閲覧しながら、意見書を記載することは現実的な方法とは言えません。図書の内容が実際と齟齬がないか精査することは、影響を適切に評価するうえで重要ですので、ダウンロードや印刷を可能にすべきです。また、閲覧期間に限らず随時、インターネットで閲覧可能にしている事業者もいるので同様の対応をお願いします。公立の図書館または市役所等で閉架禁帯出扱い等により厳重に管理したうえで所蔵し、閲覧できるようにすべきです。図書の信頼性の確保と、地域住民との合意形成のためには透明性・公平性が不可欠です。

以上